

「第40回全国理数科教育研究大会」報告

教諭 高橋弘毅

研究主題	『系統的な理解を深め、創造的な能力を高める理数科教育』 —科学的、数学的に考察し表現できる人材育成を目指して—
大会期日	平成24年10月4日(木)～10月5日(金)
会場	ホテルブエナビスタ(長野県松本市)
記念講演	「ワーキングメモリ課題を体験して生徒の脳自分の脳に必要なことを知ろう」 諏訪東京理科大学共通教育センター教授 篠原菊紀 氏
協議事項	<ul style="list-style-type: none">・秋田県における理数科合同研修会やソウル高校との交流は先進的な取り組みで、評価に値する。・くくり募集については、あまり好ましくない。学科というよりはコースに近く、本来の理数科の趣旨とは異なる。また、理数科の教育課程は、普通科に比べ柔軟性が低いため、未履修に注意をして欲しい。・くくり募集を実施すると、1年生で理数科としての活動ができなくなる分、2～3年生における取り組みが厳しくなると考えられる。そのため、イベントの数を減らして、事前事後指導を充実させた方が良い。・在学時のアンケートだけでなく、卒業後のアンケートを是非実施して欲しい。・理数が苦手な生徒ほど型にはまらない発想が期待できるので、科学部を有効活用して欲しい。・先生方は、全てを教え込むことを重視しすぎているのではないか。ともすれば、その熱心さが空回りし、自己満足して終わっていることが懸念される。もっと育てるという意識を持って欲しい。・課題研究を通して自信を育てて欲しい。自信は自己実現をもたらす原動力となる。
感想	念願が叶い、ようやく全国理数科教育研究大会に出席することができた。これまで、県内の理数科主任とは情報交換ができていたため、それが全てであるような考えでいたが、日本は広く、全国各地で様々な取り組みがなされていた。特に参考になったのは、山口県立山口高等学校の課題研究における評価方法であった。本校でも教育課程の変更に伴い、来年度から2年理数科において課題研究が授業として実施され、評価も必要となる。しかし、これまで課題研究については評価はなされてこず、従って、明確な評価基準は存在しない。この度の大会を通して得た他校での先進的な取り組みを参考にしながら、本校独自の評価方法を構築していきたいと思う。最後に、貴重な経験をさせていただきました校長先生には、心より感謝申し上げます。